



小樽ロータリー

クラブ会報

14 No.3843
創立1933.12.12

例会場：グランドパーク小樽
例会日：毎週火曜日12時30分
事務所：小樽市築港11番3号
http://www.otaru-rotary.net/
発行日：2012年10月16日

2012～2013年度 RI会長 田中 作次 (Sakuji Tanaka)



2012-13年度
国際ロータリーテーマ



今日のプログラム

「夜間例会」 (地区大会報告並慰労会)

第13例会記録 2012年10月9日

■ロータリーソング 「我等の生業」

■会長報告 (笠間会長)

- ・8月28日の納涼例会に名古屋北RCより13名お越しいただき、書籍まで頂戴したお礼として北海道ワインを送りましたが、お礼状が届いております。
- ・今月は職業奉仕月間です。職業奉仕といえばアーサー・フレデリック・シェルドンを抜きに考えることができませんが、ロータリーに関する文献をデジタルデータに保存している「源流の会」というサイトの中に、彼の有名なスピーチの全文がありました。ロータリーは1905年に設立され、シェルドンは1908年1月に入会し拡大情報委員長に就任しますが、その年の10月にポール・ハリス会長が何らかの責任をとって辞任をし、シェルドンも一緒に辞任します。その後の1910年の第一回全米年次総会で有名な「He profits most who service his fellows best」を提唱するのです。ちなみに職業奉仕については他団体でも同様の綱領があるということなので、ロータリーが唯一の団体である、という発言には今後注意すべきと思います。

■幹事報告 (堀岡幹事)

- ・10月14日は地区大会です。バスで出席の方は、元グランドホテル前午前6時出発、その後入船十字街、朝里教習所前に停車します。
- ・10月16日の例会は夜間例会です。地区大会の報告及び慰労を兼ねております。
- ・10月30日の例会は休会です。
- ・例会終了後、理事会を開催します。
- ・吉村会員と宏栄社さんのご好意で、国旗・ロータリー旗の洗濯をしていただきました。御礼申し上げます
- ・例会変更
 銭函RC：10月18日の例会は休会です。
 (地区大会に振り替えております。)
 余市RC：10月10日の例会は夜間例会で、場所は北の海幸そーらん、点鐘は18時30分となっております。

■委員会報告

●米山記念奨学・学友委員会 (渋谷繁男会員)

今月は米山月間です。基金へのご寄付をよろしくお願ひします。金額の規定はありませんが、年間寄付額2,000円から特別寄付金について確定申告用の領収証が自動的に発行されます。

■真心箱報告 (井上晃会員)

- ・吉村会員…北海道宏栄社を施設見学していただき。
- ・高田会員…小樽カントリー倶楽部10月月例(サトウカップ)に優勝しました。
- ・半田会員…57歳になりました。
- ・海老名(健)会員…誕生祝い有難うございます。
- ・野口(禮)会員…誕生日祝いとして。
- ・河辺会員…誕生祝い。
- ・笠間会長…例会の大事な通算回数を間違えました。

出欠調べ

(10月2日分)

1. 本日の欠席者 (14名)
 足立 竹秀、泉 侑、稲垣 哲也、井上 晃、熊澤 隆樹、佐藤 勝次、佐藤 斉、佐藤 正嗣、武井 豊、中野 豊、星野 昭雄、松倉 弘、宮本 孝雄、村住 俊幸
2. 本日の出席者 (会員73名中54名)
 (出席規定除外者8名中4名出席)
3. 前々回 (9月18日) の確定出席率 (会員数73名)
 (義務出席会員68名 出席62名 91.18%)
4. 前々回のメーキャップ
 海老名 健 (樽南)、足立 竹秀 (札南)、西條 文雪 (地区行事)、佐藤 正嗣 (他クラブ行事)

(10月9日分)

1. 本日の欠席者 (14名)
 泉 侑、熊澤 隆樹、西條 文雪、櫻井 幹員、佐藤 勝次、佐藤 慶一、澤田 忠宏、武井 豊、中野 豊、浜田 健嗣、平松 正人、星野 昭雄、宮本 孝雄、村住 俊幸
2. 本日の出席者 (会員73名中55名)
 (出席規定除外者8名中5名出席)
3. 前々回 (9月25日) の確定出席率 (会員数73名)
 (義務出席会員69名 出席62名 89.86%)
4. 前々回のメーキャップ
 井上 晃、橋本 斉 (以上他クラブ行事)
 泉 侑、澤田 忠宏、平松 正人、山崎 繁樹 (以上樽南)

前回のプログラム

会員卓話「家業について」 野口 禮二 会員

本日は「野口家」のことを紹介しようと思い、本日の卓話のテーマにさせていただきました。

私は平成元年10月に小樽RCに入会をしまして、当時は株式会社丸ヨ野口という会社で、食品・酒類の卸をしておりました。一業種一社ということから「ビール配布」という職業分類で、その頃ビールについての卓話をさせていただきました。平成7年4月に体調不良から休会しておりましたが、北の誉酒造の社長・会長を歴任し、今年の3月で辞めることが決まっておりましたので、余裕もできるだろうと思い昨年復会しました。

現在は株式会社秀映社という、不動産の管理会社をしております。祖父が残してくれた不動産の維持管理会社です。不動産と言っても、多少のアパートを管理しているのと、グループホームを建てて運営管理会社に貸しています。また「和光荘」を3年前に北の誉酒造から買い取りました。「和光荘」は大正11年建造で、祖父の自宅であり私の生家でもあり今年90年を迎えております。いま建物をどうしようかと飛び回っている最中なのですが、修理や維持に苦労しており、現在いろいろな方のご協力をいただいております。今年も屋根の鬼瓦が雪の重みで落ちてしまったのですが、職人も少なく多額の費用を何とか保険で賄ったところでした。当時の和光荘は祖父の自宅である以外に、様々な事業の研修や接待の場として、或いは冠婚葬祭にも使われておりました。総建坪は500坪ありまして、今となっては使いにくい建物になっております。

ここで私の略歴を申し上げます。先ほど誕生祝いを戴いたとおり、今年で年金生活に入れる昭和22年生まれの65歳でございます。生家は和光荘ですが、小さい頃に花園町に移り小学校3年まで花園小学校に通っておりました。当時は東京に父の親戚がたくさんいたこともあり、父の意向でその後は2名の姉と一緒に東京に住むことになりました。私が小さかったので、母は月の半分くらいは東京へ様子を見に来てくれておりました。父は3、4ヶ月に一度くらい出張で来ていました。そのまま東京で大学まで卒業し、昭和45年に北海道拓殖銀行に入行しました。最初は日本橋にあった東京支店で6年ほど勤務した後に、札幌・旭川を経て再び東京に戻り、15年で5ヶ店を経験しました。昭和59年に父が他界し、当時「丸ヨ野口」の社長をしていた叔父と、父が役員をしていた北の誉酒造からのお誘いがあり、母も一人になることもあって小樽に戻って参りました。「丸ヨ野口」は、「国分」さんという最大手の卸業者と業務提携しておりました。当時小樽には、250店程度の小売店に11社もの卸業者があり、価格交渉が大変激しい時代でした。そこで私は利益になる方法として、昭和60年代に売れ始めていた地酒に特化した卸を目指して全国の蔵元を訪ね、最終的に108社程のお取引を頂戴し、地酒で年商9億円程の取り扱いができました。その後、量販店やディスカウントストアが出てきて大変厳しい時代になり、「丸ヨ野口」は2000年に「国分」さんに営業譲渡をし

社を清算しました。その後、2001年に北の誉酒造に取締役として入社しました。当時は余剰人員や後継などで問題を抱えておりました、合同酒精の田中社長に相談をして、2009年に合同酒精の持ち株会社オエノンホールディングのグループに入り、全てを託して現在に至っております。

ここで「野口家」の話をしていきます。初代は金沢出身で、元々西川姓で貧農の子沢山でした。何回も養子に出され7回目で養子縁組をして野口姓になったようです。明治19年に小樽に渡ってきましたが、当初は食べることも大変な生活で、石炭を運ぶ人夫の仕事や着物の行商で生計を立てていました。明治20年に真栄町にあった丸ヨ石橋商店という呉服問屋さんが醤油の醸造を始めるにあたり、金沢時代に醸造業に身を置いていた経験もあって杜氏として採用されました。明治23年には醸造した醤油の販売を自ら始め、石橋商店の屋号「丸ヨ」を頂き「丸ヨ野口商店」として商売が始まりました。その11年後に丸ヨ野口商店の酒造部として「北の誉酒造」が発足しており、以来111年間皆様のお世話になっております。この間、札幌の「西尾」、旭川の「岡田」という初代の兄弟筋を小樽に呼んで、「北の誉」という銘柄でお酒を製造しておりました。当時はそれぞれ独立した法人格でしたが、昭和43年に3社が合併し、現在の「北の誉酒造」となりました。当時は札幌に本社がありましたが、私が社長になってから小樽に移した経緯がございます。現在は合同酒精さんから来て頂き、何とかやっております。合同酒精は大正13年に、当時北海道にあった焼酎メーカー4社が合併した会社ですが、私の祖父が当時の国税局や拓銀からの依頼で、悩みに悩んで引き受けた会社であります。そのような兄弟会社のような関係でしたので、将来を託したのでございます。今後は、昭和41年創業の秀映社を、まだ若い会社ではありますが、家の業として代々続けていきたいと考えております。

最後に日本酒の話をするのですが、日本酒は日本の食文化のひとつと考えております。日本酒はオイルショックあたりの昭和48年頃がピークで、当時清酒メーカーが全国に3,500社ほどありました。現在は1,300社と、約3分の1に減ったことになりました。消費も減っており、例えば昔は宴会には日本酒で乾杯をしたものです。若い方が飲まなくなったのも一因かと思えます。最近では海外に輸出を始めておまして、今年の7月までの統計ではアメリカへの輸出がトップで、2番目は韓国、3番目は香港です。これからの季節は鍋で一杯という季節になりますが、必ずお水を飲みながら日本酒を飲んでいただくことを提唱しております。ウイスキーのロックにはチェイサーという氷水と一緒に飲まれると思いますが、日本酒には「やわらぎ水」と称します。ぜひ美味しい日本酒を楽しんでいただきたいと思っております。ご清聴ありがとうございました。

